公開シンポジウム

どんぐりとピアノ はじまり、はじまり会議

開催レポート

2023年
9月24日(日)
13:00–16:30
須賀小学校体育館

当日は 60 名の
町民が参加！

新しい須賀小学校＆地域拠点を まちのみんなで考えよう！

ミライの小学校ってどんな音がするんだろう？新しい小学校＆地域拠点について、子どもも保護者も学校の先生も地域のおとなも一緒になって考える会議がスタート。まずはキックオフとして、他のまちの面白い小学校を知り、意見交換の場もあるシンポジウムを開催しました。

シンポジウムに仕掛けたいくつかの楽しさ演出

その1 参加者にどんぐり・ピアノグッズをプレゼント！

キャラクターイラストが印刷された巾着袋

中にはどんぐりとピアノにちなんだお菓子が…！

さらにオリジナルキャラたちの缶バッジも！全 12 種

その2 会場をどんぐりとピアノで楽しく装飾！

その3 跳び箱やマット、平均台も会場に…！？

PROGRAM

町長より開会宣言

「子どもたちがワクワクして通いたくなる学校、毎日来たくなる学校。そして地域の皆さんが地域活動を通じて須賀小地域を活性化することに参加できる場所をつくりましょう！」と新井町長より開会宣言をしました。

プロジェクト概要説明

続いて、進行役である役場プロジェクトチームのメンバーより、須賀小再整備プロジェクトについてご紹介しました。今年度は、昨年度策定した基本構想に基づき、新しい施設に入る機能やその規模、配置等を検討し、同時にセキュリティ等子どもたちの安全面についても検討していきます。新しい学校ができるまでがゴールなのではなく、新しくなった学校を何十年にもわたって使い育てていけることがゴールであると考えています。

今回の再整備のため、町では、教育、地域コミュニティ、防災、子育てなど、組織を横断したプロジェクトチームを編成しています。

スゴイ！小学校①
愛知をのぞいてみよう！
（新城市立作手小学校）

事例紹介の１つ目は、小学校と地域交流施設の合築である愛知県新城市の作手（つくで）小学校。人口約2,500人の地域にある生徒数68人の学校ではありますが、校舎内での豊かな過ごし方、地域の方との交流の様子など、今回のプロジェクトで参考にしたい風景がたくさん実現している事例です。

学びのポイント

- ○地域と学校の先生が一緒にワークショップ（話し合い）を重ねて計画、設計案を検討。その中から、中庭とその周りに配した特別教室を双方で共有するというアイデアが出てきた。
- ○完成までの間、参加の機会を数多くつくり、住民の認知向上と意見収集、活動参加に努めてきた。
- ○小学校に家庭科室を置かず、地域施設にのみ「調理室」を設置し、学校と共同利用。
- ○地域のホール、図書室、ホワイエも学校と共同利用。
- ○開設後の運営に地域住民も関わっている。

学校の先生と地域住民が一緒の場で話し合いを重ねてきた

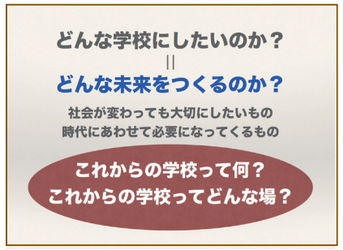
地域の図書室を児童も自由に使える

スゴイ！小学校②
北海道をのぞいてみよう！
（安平町立早来学園）

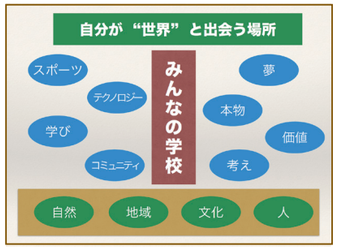
2つ目の事例は、北海道の安平町（あびらちょう）にある早来（はやきた）学園です。2018年の地震で被災し、仮設校舎で学校生活を送っていましたが、今年4月に新たに小中一貫の義務教育学校として開校を迎えました。地域住民も施設を活用でき、セキュリティ面の安心を実現するため、ICTを活用したスマホによる入退室管理などの新しいシステムを取り入れていることも特徴です。

学びのポイント

- ○耐用年数的に、この学校は22世紀まで使うかもしれない。今までの価値観で作っていいのかと問い続けた。
- ○学校の中に地域があるようにするため、地域も使える図書館と学校エリアの間に家庭科室と美術室を配した。
- ○家庭科室はキッチンスタジオ、美術室は創作アトリエと読み替え、地域も使えるようにしている。時間割と連動する予約システムをつくり、その場にいなくても誰でもスマホで利用予約ができるようにしている。
- ○セキュリティ面はまず地域と生徒の玄関を分け、顔認証による入館システムを構築した。また、図書館司書もいるため、アナログなチェックもできている。



これまでの価値観を変えるため、そもそも学校ってどんな場なのか、から話すことにした



コンセプトは 年齢関係なく「自分が“世界”と出会う場所」。そこから必要な機能を考えた

地域と学校をわけず、学校の中に地域があるようにするため、3組の専門家と組んでプロジェクトを推進

小学校をまちの新拠点に！クロストーク

スゴイ！小学校の事例紹介のあと、4人のゲストに登壇いただきクロストークを実施。新しい施設への思いや使い方の案、新しい価値観とこれからも変わらず大事にしていきたい考えなどについて、いろんな角度から自由に話してもらいました。

日本工業大学　佐々木教授

この建物や敷地内のことだけでなく、「エリア全体を活性化する」という発想を大事にしてもらいたい。新しい学校＆地域拠点施設ができることで、周辺の公共施設やカフェなどでも人々が交流するようになったり、新しいことを始めたい気持ちになってもらいたい。

安平町教育委員会　井内さん

図書室でテレワークをする大人も多く、web会議をして働いている様子を昼休みの子どもたちが見ているという状況も面白い。それも働く姿のひとつ。また、大人たちには、自分たちの新しい遊び場ができたような気持ちで早来学園を使い倒してもらいたいと思っている。

須賀小学校 金野校長

学校は「確かさ」と「豊かさ」の両輪で教育を担っていると考える。確かさは、A＝Bという教育。一方で、豊かさは、人と人とが関わり合い、そこに生まれてくるもの。地域の方々が学校、そして敷地内にいられるという環境は、魅力をつくるだけでなく、これからの私たちに夢も与えてくれる。

須賀小学校 PTA副会長　原田さん

大人になって須賀小に戻ってきた時に、楓の木がなんだか小さく感じた。自分も楓も年を重ね、変化している。また、葉っぱが落ちたら冬を感じ、芽吹いてきたら春を感じる。6年間過ごしてきたときに感じてきた気持ちが今も自分の中に活きていることを実感した。

ワークショップ「どんぐりとピアノ」アイデア出しの体験会

最後に、これから行われるワークショップ「どんぐりとピアノ」の様子を先取り体験してもらうため、参加者同士がグループになってワークに取り組む時間を設け、テーマに基づき各々が自由に意見を出し合いました。

テーマ

これからの学校ってどんな場がいいだろう…？

（地域と学校が一緒にある学校を考えよう）

したいことをするときに背中を押してもらえる

部屋にとらわれず地域の場が教室になる

「機会」と「出会い」にあふれている場所

異年齢で気楽に声をかけ合って相談したり教え合ったりできる

子供目線・大人目線で意見の言い合いをしたい

町で働いている人、町で作られているものを知れる場所、出会える場所

個人の興味、好きなことを遊ばせる教育がある

デジタルとアナログ（昔ながらの技術）どちらも覚えられる学校

自分が 80 歳になったときに学校で勉強したい

途中で行って途中で帰ってこれるところ

世界の中で生き抜ける力を養う学校

教育長からご挨拶

学校では、未来に向けて、主体的で対話的で深い学びを続けていこうとしています。「何がしたいか？」を主体的に考えること。そして、「どんな学校にしたいか？」をいろんな人と対話しながら考えていくこと。これからのワークショップを通じて、価値観の変化を感じながら、ぜひ深い学びの中でともに新しい拠点施設のことを考えていただけると幸いです。

参加者の感想

- ○登壇者の話、近くの方との感想や意見交換を通じて、新しい学校＆地域拠点ができることへの期待がふくらんだ
- ○目の前が明るく感じた。健常の子どもたちと障害のある子は一緒に通えるのか？現実の壁でどこまで変えられるのか？
- ○100 年後の学校を考える、子どもたちのことを考える＝未来を考えるというのが印象的だった
- ○学校と公共施設を、小学生と住民が共有したり分割して利用しているケースの紹介が印象的だった
- ○立場がまったく違う 3 ～ 4 人のグループで話すのは楽しかった
- ○学校＝“子ども” の学びの場という考えしか持っていなかったので新城市や安平町の事例に驚き、ワクワクした
- ○過去と未来の融合の大切さを感じた

どんぐりとピアノ 公開シンポジウム 開催レポート
発行日：令和 5 年 11 月 11 日　発行：宮代町 / 宮代町教育委員会